

市川町景気動向調査

2 0 2 5 年 4-6 月期

【全国の動向】

6 月期の産業全体の景況は、業況 DI がわずかに上昇、採算はわずかに低下し、売上額・資金繰り DI は不変であるといえます。価格転嫁も十分ではなく、節約志向による買い控えも影響しています。製造業を除き各 DI はほぼプラスで推移していますが、2025 年 6 月の日銀短観の調査結果では、先行きの見通しが悪化していることから、今後の動向には引き続き注意が必要です。

(全国商工会連合会 小規模企業景気動向調査〔2025 年 6 月期調査〕より引用)

【兵庫県の動向】

今期の全地域・全業種における業況 D.I.は 4.51 と前期から 7.98 ポイント上昇し、プラス域に再浮上しています。売上額 D.I.・収益 D.I.・資金繰り D.I.も前期より上昇し、売上額 D.I.は 5 期連続でプラス域を維持しています。人手過不足 D.I.は前期より低下し、人手不足感の強い状況が続いています。来期は収益 D.I.が上昇、業況 D.I.・売上額 D.I.・資金繰り D.I.は低下するもののプラス域を維持、人手過不足 D.I.は今期に続き低下する予想となっています。

業況は「好調」とまでは言えないものの、製造業・建設業では受注・需要は一定水準を維持しており、個人消費においても生活必需品・サービスの値上げはあるものの買い控えは少なく、小売業・サービス業を中心に、底堅い需要に支えられているものと見られます。依然としてすべての業種で材料価格 D.I.・仕入価格 D.I.が高い状態で、原材料・仕入価格、電気代の高騰や、人材確保のための賃上げ負担が、収益に与える影響は少なくないものと考えられます。我が国と米政権との関税交渉が難航・長期化する可能性も考えられ、先行き不透明感から、今後が予想しづらい状況が来期予想に反映されているものと考えられます。

※回答時期から、中東情勢に関する地政学的リスクによる影響は織り込まれていないものと見られます。

(但陽信用金庫景気動向調査レポート No.37〔2025 年 4～6 月期〕より引用)

【地域の動向】

・製造業の動向

コロナ禍からの回復傾向が見られる企業がある一方で、多くの製造業では厳しい経営環境が続いています。特に、原材料価格の高騰と人件費の増加が収益を強く圧迫しており、売上が回復傾向にあっても、収支はそのまま推移している状況が報告されています。さらに、設備導入のための借入れにおいて、貸付金利が上昇しており、資金繰りが苦しくなっているとの報告もあり、金利負担の増加も経営課題となっています。

経営上の問題点としては、生産設備の不足や老朽化が多く、多くの企業で挙げられており、熟練

技術者の確保が困難であるという課題も存在します。市場動向としては、国内での需要が高まり受注が増加傾向にある好調な事例もあるものの、全体としては需要の停滞や、大企業の進出による競争激化に直面している企業も存在します。経費の増加や金利負担増が経営を圧迫し、持続的な成長に向けた課題を抱えています。

• サービス業の動向

サービス業は、需要の停滞という深刻な問題に直面しており、特に一般顧客からの受注減が顕著に現れています。例年繁忙期とされる期間でも、例年並みの受注が得られない状況が報告されており、企業からの定期的な受注が、一般顧客の売上減少を補填する役割を果たしているケースも見受けられます。

経営上の問題点としては、原材料価格の上昇に加え、光熱費の上昇や人件費以外の経費の増加が共通して挙げられており、これが事業の採算を圧迫する主要因となっています。

また、製品（加工）単価の低下や上昇の難しさが利益率をさらに厳しくしており、顧客ニーズへの迅速な対応が不可欠であると認識されています。一部の企業では、店舗の改装を通じて顧客ニーズへの対応を図る動きも検討されており、厳しい需要低迷と経費増加の板挟みの中で、経営の立て直しが模索されています。大企業の進出による競争激化も懸念材料として挙げられています。

• 卸小売業の動向

卸小売業では、インフルエンサーを活用した紹介により新規顧客の獲得に成功し、受注や売上が増加傾向にあるという明るい兆しも一部で見られます。しかし、業界全体としては依然として厳しい状況が続いています。最も顕著な問題は、原材料価格の高騰と、それに伴う原材料の不足です。仕入れ値が上昇している上に、必要な在庫が確保できないために、たとえ顧客からの注文があっても対応できない事態が発生していると報告されています。

また、需要の停滞も経営に大きく影響しており、多くの企業で原材料費や人件費以外の経費が増加していることも共通の課題となっています。さらに、生産設備の不足や老朽化、新規参入業者の増加による競争激化も経営上の問題点として挙げられています。このように、需要喚起の成功例がある一方で、コスト増と供給不安が事業を圧迫し、業界内での二極化が進む可能性を示唆しています。

• 建設業の動向

建設業は、人手不足が極めて深刻な経営課題として浮上しており、特に若い従業員や熟練技術者の確保に苦勞している状況が報告されています。この人手不足は、同業他社も含めて工事の入札が取れにくくなるなど、事業機会の損失に直結しています。加えて、原材料価格や原油価格の高騰、そしてそれに伴う材料不足が経営を強く圧迫しています。業務に必要な材料が不足し、受注を断らざるを得ないケースも発生しており、これが直接的に利益を圧迫

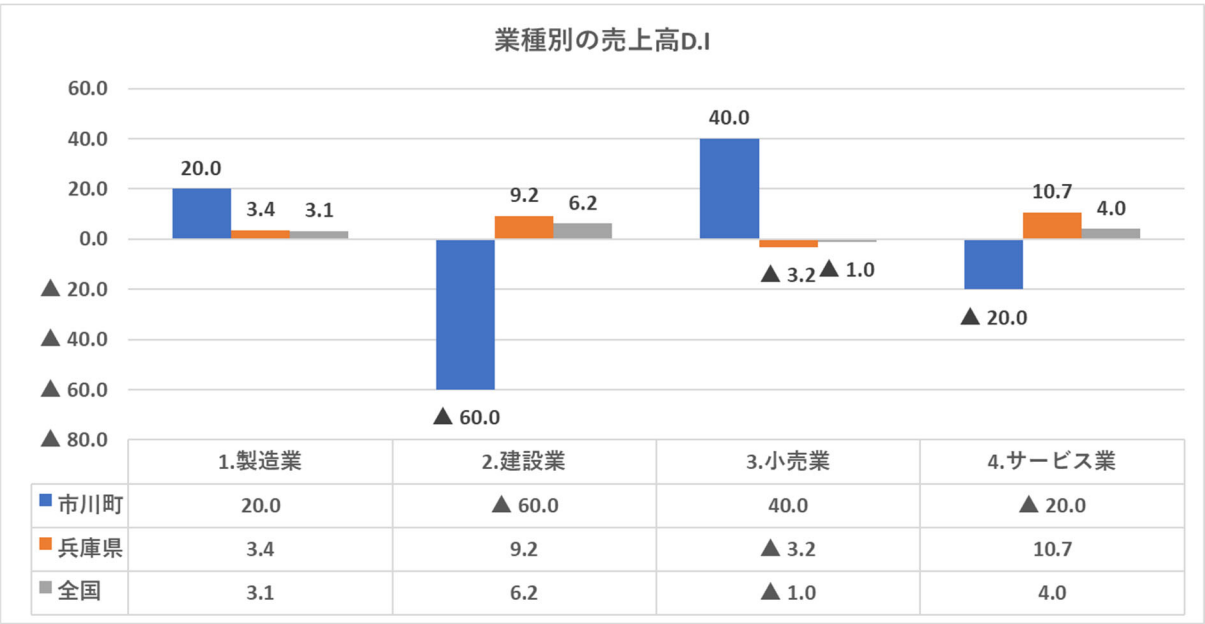
する要因となっています。

また、原材料費・人件費以外の経費の増加も共通して見られる課題です。市場環境としては、大企業の進出や新規参入業者の増加による競争激化も報告されており、既存の企業は厳しい競争に晒されています。このような逆風の中、一部の企業は新規分野に進出することで、自社の持続的発展を図ろうとするなど、事業継続に向けた模索が続いています。

1. 売上高の状況

図表 1. 業種別の売上高D.I
【今期調査結果】

	市川町				兵庫県D.I (但陽)	全国D.I (全国連)
	構成比			D.I		
	1.増加	2.不変	3.減少			
全産業	25.0%	45.0%	30.0%	▲ 5.0	6.1	3.1
1.製造業	40.0%	40.0%	20.0%	20.0	3.4	3.1
2.建設業	0.0%	40.0%	60.0%	▲ 60.0	9.2	6.2
3.小売業	60.0%	20.0%	20.0%	40.0	▲ 3.2	▲ 1.0
4.サービス業	0.0%	80.0%	20.0%	▲ 20.0	10.7	4.0

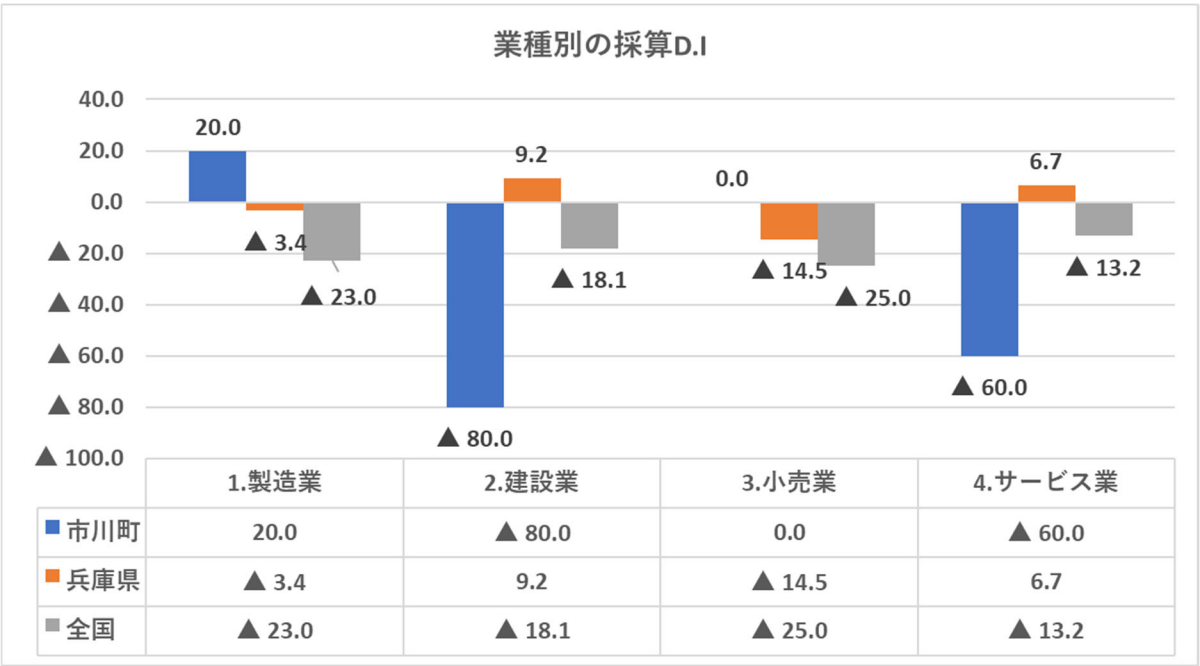


2. 採算（経常利益）の状況

図表2. 業種別の採算D.I

【今期調査結果】

	市川町				兵庫県D.I (但陽)	全国D.I (全国連)
	構成比			D.I		
	1.増加	2.不変	3.減少			
全産業	15.0%	40.0%	45.0%	▲ 30.0	1.2	▲ 19.8
1.製造業	40.0%	40.0%	20.0%	20.0	▲ 3.4	▲ 23.0
2.建設業	0.0%	20.0%	80.0%	▲ 80.0	9.2	▲ 18.1
3.小売業	20.0%	60.0%	20.0%	0.0	▲ 14.5	▲ 25.0
4.サービス業	0.0%	40.0%	60.0%	▲ 60.0	6.7	▲ 13.2

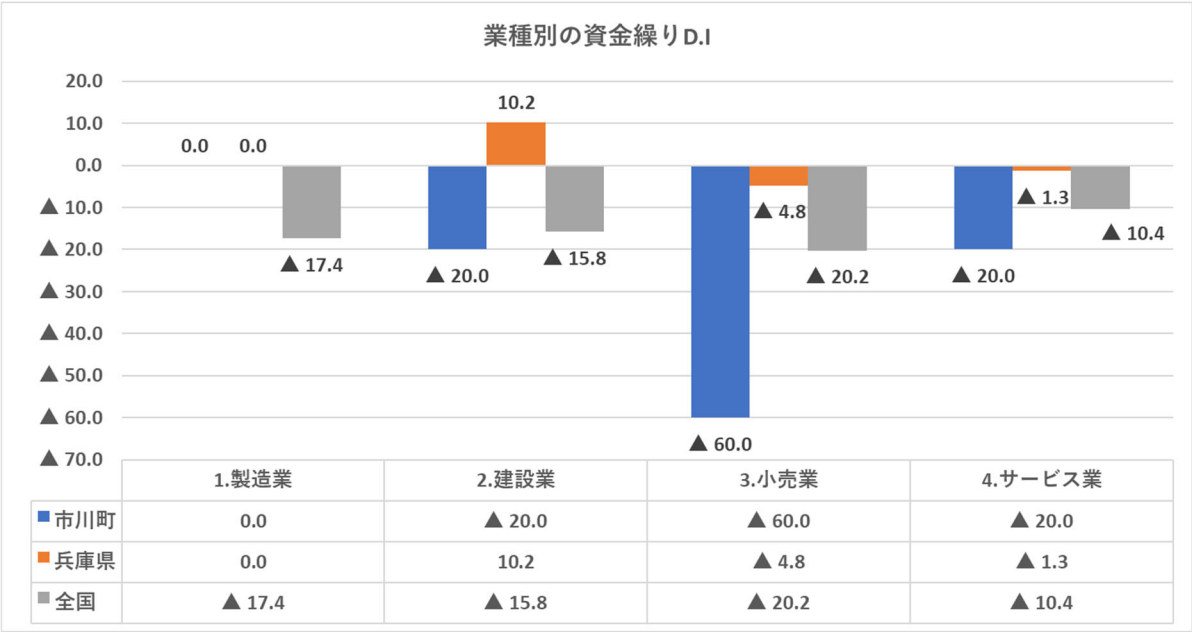


3. 資金繰りの状況

図表3. 業種別の資金繰りD.I

【今期調査結果】

	市川町				兵庫県D.I (但陽)	全国D.I (全国連)
	構成比			D.I		
	1.増加	2.不変	3.減少			
全産業	0.0%	75.0%	25.0%	▲ 25.0	1.4	▲ 16.0
1.製造業	0.0%	100.0%	0.0%	0.0	0.0	▲ 17.4
2.建設業	0.0%	80.0%	20.0%	▲ 20.0	10.2	▲ 15.8
3.小売業	0.0%	40.0%	60.0%	▲ 60.0	▲ 4.8	▲ 20.2
4.サービス業	0.0%	80.0%	20.0%	▲ 20.0	▲ 1.3	▲ 10.4

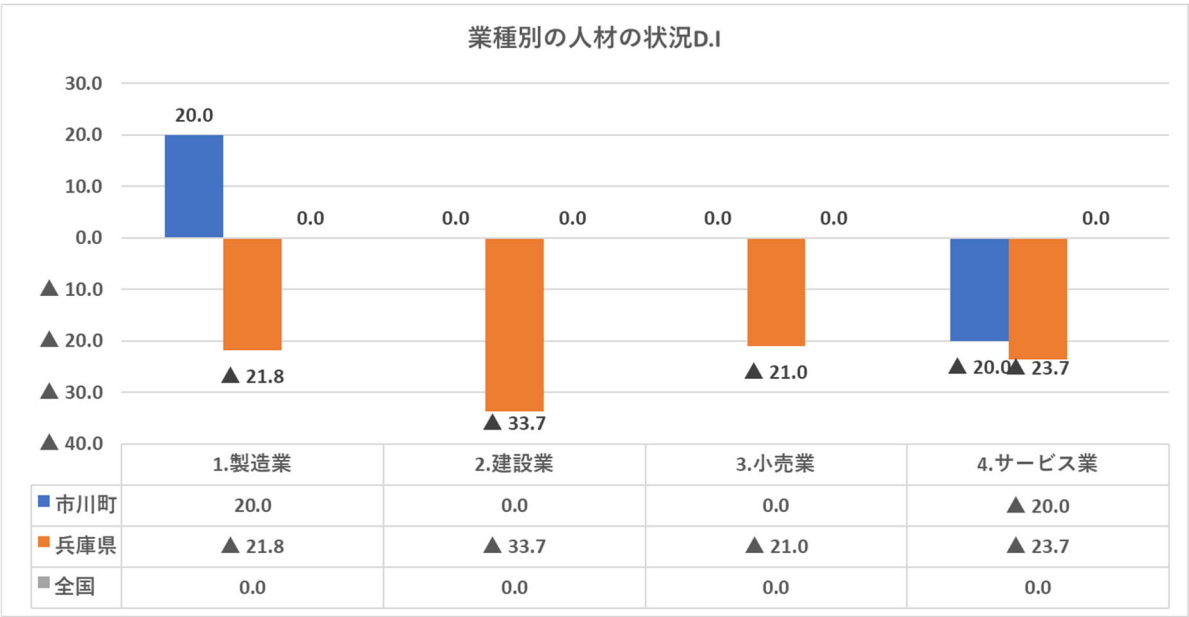


4. 人材の状況

図表4. 業種別の人材の状況D.I

【今期調査結果】

	市川町				兵庫県D.I (但陽)	全国D.I (全国連)
	構成比			D.I		
	1.増加	2.不変	3.減少			
全産業	5.0%	90.0%	5.0%	0.0	▲ 23.3	0.0
1.製造業	20.0%	80.0%	0.0%	20.0	▲ 21.8	0.0
2.建設業	0.0%	100.0%	0.0%	0.0	▲ 33.7	0.0
3.小売業	0.0%	100.0%	0.0%	0.0	▲ 21.0	0.0
4.サービス業	0.0%	80.0%	20.0%	▲ 20.0	▲ 23.7	0.0

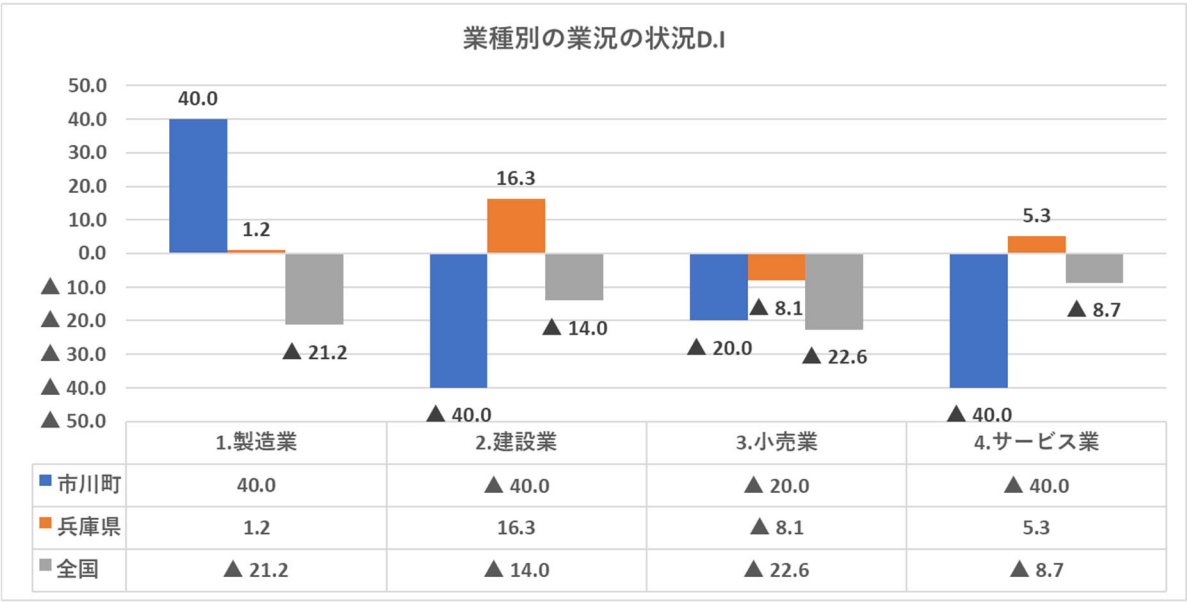


5. 業況の状況

図表5. 業種別の業況の状況D.I

【今期調査結果】

	市川町				兵庫県D.I (但陽)	全国D.I (全国連)
	構成比			D.I		
	1.増加	2.不変	3.減少			
全産業	15.0%	55.0%	30.0%	▲ 15.0	4.5	▲ 16.6
1.製造業	40.0%	60.0%	0.0%	40.0	1.2	▲ 21.2
2.建設業	0.0%	60.0%	40.0%	▲ 40.0	16.3	▲ 14.0
3.小売業	20.0%	40.0%	40.0%	▲ 20.0	▲ 8.1	▲ 22.6
4.サービス業	0.0%	60.0%	40.0%	▲ 40.0	5.3	▲ 8.7



6. 最も優先すべき経営上の課題（市川町）

図表6. 業種別の経営上の課題

	1位	2位	3位
1.製造業	需要の停滞	原材料価格の上昇	人件費の増加
	熟練技術者の確保難	原材料費・人件費以外の経費の増加	需要の停滞
	大企業の進出による競争の激化	生産設備の不足・老朽化	原材料価格の上昇
	生産設備の不足・老朽化	人件費の増加	金利負担の増加
	原材料価格の上昇	原材料費・人件費以外の経費の増加	製品（加工）単価の低下・上昇難
2.建設業	従業員の確保難	熟練技術者の確保難	原材料費・人件費以外の経費の増加
	大企業の進出による競争の激化	新規参入業者の増加	人件費の増加
	生産設備の不足・老朽化	従業員の確保難	原材料費・人件費以外の経費の増加
	原材料価格の上昇	原材料費・人件費以外の経費の増加	原材料の不足
	原材料価格の上昇	原材料費・人件費以外の経費の増加	金利負担の増加
3.小売業	原材料費・人件費以外の経費の増加	生産設備の不足・老朽化	新規参入業者の増加
	原材料価格の上昇	原材料の不足	その他
	従業員の確保難	原材料価格の上昇	原材料費・人件費以外の経費の増加
	需要の停滞	原材料価格の上昇	原材料費・人件費以外の経費の増加
	原材料価格の上昇	原材料費・人件費以外の経費の増加	製品（加工）単価の低下・上昇難
4.サービス業	原材料価格の上昇	製品（加工）単価の低下・上昇難	製品ニーズの変化への対応
	原材料価格の上昇	原材料費・人件費以外の経費の増加	需要の停滞
	製品（加工）単価の低下・上昇難	製品ニーズの変化への対応	その他
	需要の停滞	原材料価格の上昇	人件費の増加
	原材料価格の上昇	生産設備の不足・老朽化	大企業の進出による競争の激化

	業況等判断の背景について、貴社が感じておられること
1.製造業	R4年度はコロナの影響で過去最高の売上高だったが、収束したR5年度は過去最低の売上高となった。徐々に売上は回復傾向にあるが、原材料価格や人件費の上昇があり、収支はトントンの状況。
	今年の春に金融機関の借入により設備導入したが、貸付金利が上昇しており、資金繰りが苦しくなっている。
	国内での需要が高まりつつあり、受注が増加傾向にある。
2.建設業	若い従業員の確保に苦労している。
	建設業全体として人手不足。同業他社も含めて、工事の入札が取れにくくなっている。
	新規分野に進出することで、自社の持続的発展を図りたい。
	業務に必要な材料が不足しており、受注を断っていることもある。
3.小売業	原油や材料価格の上昇が、利益を圧迫している。
	仕入れ値が上がっている。在庫がなく仕入れできないものもあり、注文があっても対応ができないこともある。
	インフルエンサーによる紹介で、新規顧客が増えた。
4.サービス業	需要停滞の影響を大きく感じる。
	食材価格、光熱費の上昇が事業の採算を圧迫している。店舗の改装を行い、顧客ニーズに対応したい。
4.サービス業	例年4月～6月の期間が、1年で一番の繁忙期だが、今年度は例年並みに一般顧客からの受注は無かった。その分、病院等企業からの受注が定期的であり、一般顧客の下がった売上の穴埋めをしている状況となっている。

【総括コメント】

2025 年 4 月～6 月期の国内の景気は、大企業製造業の景況感が悪化している一方で、中小企業全体では業況判断 DI が上昇し、一部で改善の兆しが見られます。

しかし、原材料費の高騰、深刻な人手不足、十分な価格転嫁ができない状況など、依然として多くの課題に直面しています。これらの課題克服に向けた、業務効率化、新たな価値創造、適切な価格設定、そして人手確保の取り組みが、中小企業・小規模企業の持続的な成長には不可欠となる見込みです。

市川町商工会の調査では、製造業以外の業種では比較的厳しい調査結果となっていますので、今後も引き続き手厚い経営支援が必要です。

以上